

S Y L L A B U S

授 業 内 容 ・ 計 画

対人援助研究所

授業科目名	対 人 援 助 特 論				
担 当 者	村田 久行		[e-mail:]		
実施日時	学期：前期・後期・連続		土曜日	12:30～18:40 → 3隔週開講	
開 講 者	対人援助研究所	必選の別	科目等履修生は必修	対 象	科目等履修生、聴講生
注意事項	修了には6回以上の出席が必要（欠席には補講あり）				
使用教室	Zoomによるオンライン研修				
<p>科 目 概 要：【対人援助特論】</p> <p>本講義はさまざまな保健・医療・福祉の実践の場で援助に従事する対人援助専門職を対象として、対人援助の意味とその専門職性を明確にすることを目的とする。そのために、対人援助の意味と枠組みを「キュア」と「ケア」に求め、キュア概念とケア概念それぞれによる対人援助職の専門職性を、ものの見方と考え方、援助者の態度、コミュニケーションスキル、援助観において考察する。</p> <p>さらに、現象学を方法に取り入れ、対人援助の関係性、他者の理解、共感と受容、援助場面での管理と抑圧等の関係、援助の関係性を解析し、記述現象学の分析と方法論の枠組みを学ぶ。これらの対人援助専門職性の原理的考察にもとづき、保健・医療・福祉の多職種が協働するチーム形成の理論的基礎が構築され、キュアとケアの特性を生かした対人援助専門職の教育と訓練プログラムを開発するパラダイムが明確にされる。</p> <p>また、対人援助の基礎となる「傾聴」を単なるコミュニケーションスキルと考えるのではなく、関係存在である人間の関係性解明の入り口として学習し、そこから「共にいる」、「共感する」、「問いかける」という援助的コミュニケーションの原理について記述現象学に基づく関係性分析の演習とその後の事例検討を通して考察する。</p> <p>事例の検討はすべて対人援助の関係性研究に焦点をあてて行う。その内容は、高齢者への精神的サポート、終末期患者と家族へのスピリチュアルケア、児童虐待と危機状況への介入、不信と怒りへの対処、遺族の体験する悲嘆と抑鬱のプロセス、認知症の人への対人援助関係性等を対象とし、これらの理論的解明が今後の研究の入り口となる。これを基礎に、対人援助・スピリチュアルケア研究に必要な研究設計の方法を学び、対人援助論に基づく研究の目的、意義、方法等の記述の仕方を習得する。</p>					
<p>授業の進め方：毎回のテーマに従って、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①受講生のレポート発表、資料／映像の提示 ②現象学と対人援助論の視点からの講義と解説 ③受講生と講師の質疑、討論という形をとる 					
<p>課題と評価基準：毎回の小レポートと発表・・・ 8点×5回＝ 40点 発言と討議の自他評価・・・ 10点×2回＝ 20点 <u>最終レポートと発表</u> = <u>40点</u> 100点（合否基準は70点）</p>					
<p>教科書・参考書：</p> <p>[指定テキスト]・・・村田久行著『改訂増補 ケアの思想と対人援助』川島書店</p> <p>[参考書]……………授業中に紹介します。</p>					

2024年度ーオンライン用

回	講義題目	内容	特記事項
1 (4/6)	人間学①	・ケア(Care)である人間/ケアの現象学	12:30～18:40
2 (4/27)	人間学②	・デカルト：方法の4規則、精神と物体の二元論	12:30～18:40
3 (5/18)	対人援助論	・対人援助論：援助とは何かー苦しみの構造ーキュアとケアの概念対比 ・業務と援助	12:30～18:40
4 (6/8)	研究方法論	・サーヴェイとフィールドワーク (量的研究と質的研究) ・現象学的アプローチ ・研究設計と方法論を学ぶ (現象学的方法論：記述現象学)	12:30～18:40
5 (6/29)	ケアの専門職性について	・雰囲気とコミュニケーションの研究 (4つの態度、共にいる、傾聴、共感) ・体験の意味の解明 ・事例でみる認知症ケア関係性の解明	12:30～18:40
6 (7/20)	日常のさまざまな場面の 苦しみと援助	・日常の社会事象や事件にみられる 苦しみの解明と援助を研究として 取り上げ、その研究設計を学ぶ	12:30～18:40
7 (8/3)	最終レポート課題	・まとめと発表	12:30～18:40

2024年度－オンライン用